

第Ⅵ章

第2期アクションプログラムの実現化方策

VI-1 第2期アクションプログラムの進行管理

『湘南ふじさわ下水道ビジョン 第2期アクションプログラム』はPDCAサイクルによる進行管理を行います。各種施策・事業の実施状況や効果はおおむね3年ごとに分析・評価を行い、進行状況、目標の達成状況、社会情勢・ニーズの変化等を総合的に勘案し、おおむね6年後には『下水道ビジョン（長期計画）』と『アクションプログラム』の見直しを行い、下水道サービスの向上を目指します。

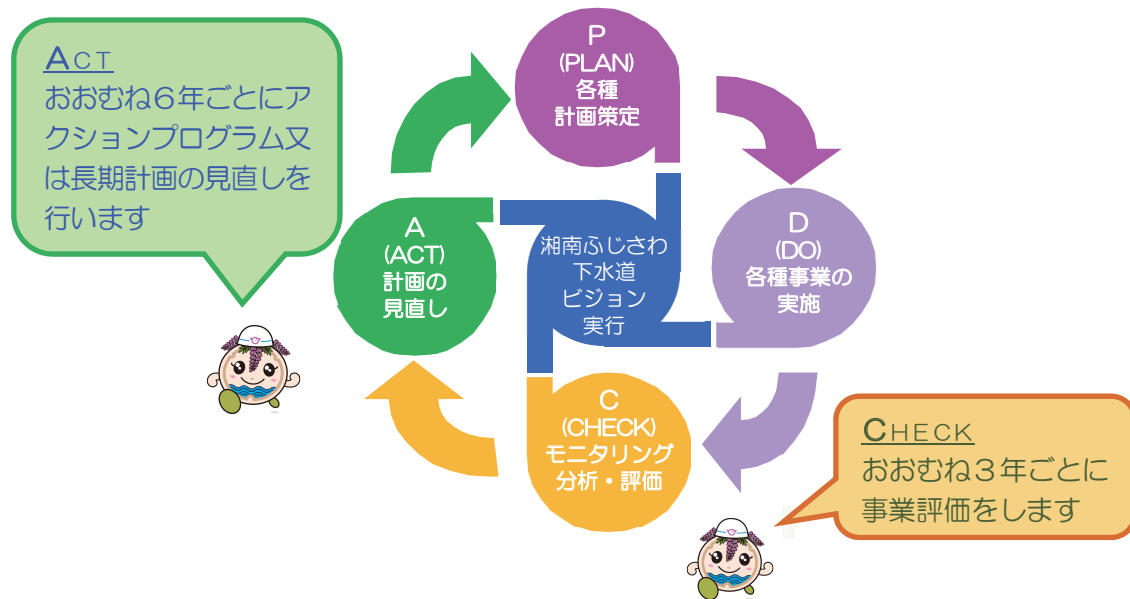


図1 湘南ふじさわ下水道ビジョン進行管理

P (PLAN) 計画策定

『湘南ふじさわ下水道ビジョン』及び『アクションプログラム』を策定します。

D (DO) 各種事業の実施

下水道ビジョンの実現に向けて、【安全】【環境】【暮らし・活力】【事業の継続性】の4つの視点、11の基本方針を中心に、各種事業を実施します。

各種事業の実施にあたっては、それぞれの事業の中でもPDCAサイクルによる事業運営を行います。最新の技術動向や社会情勢、事業制約条件などを考慮し、より詳細な事業計画を策定し（P）、各種事業を進めます（D）。また詳細検討（C）により、場合によっては、より効率的・効果的な事業へ見直し（A）を行います。

C (CHECK) モニタリング・分析・評価

アクションプログラムは、3年間で1つの区切りとして、各施策の目標に対する活動状況と効果の達成度合いを評価します。また評価時点での社会情勢やニーズ動向に合わせて事業を分析・評価し、各種計画や経営計画等の見直しの必要性について検討します。

A (ACT) 計画の見直し

各種施策の実施状況や効果、社会情勢やニーズの変化などに対応し、アクションプログラムの定期的見直し（おおむね6年サイクル）を行い、より効率的・効果的な下水道ビジョンの見直し策定と市民サービスの向上を目指します。

用語： モニタリング

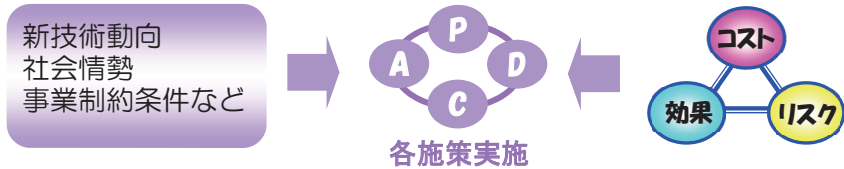
P
計画

『湘南ふじさわ下水道ビジョン』『第2期アクションプログラム』を策定。



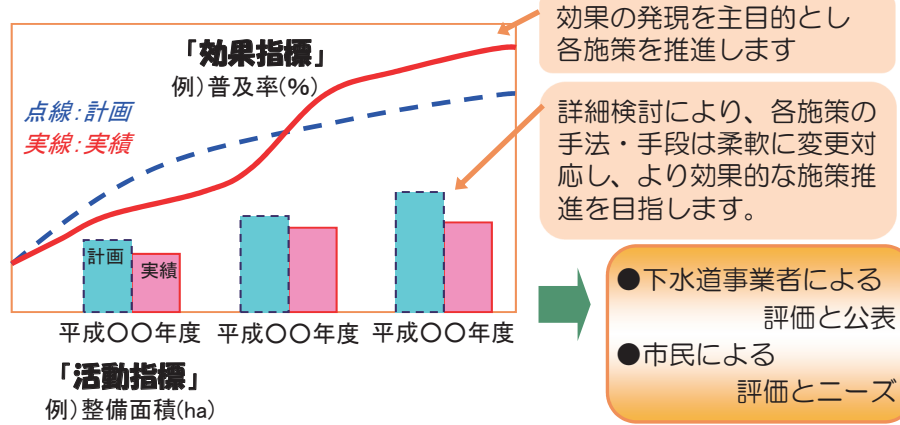
D
実施

『下水道ビジョン第2期アクションプログラム』に基づき、各施策を実施。



C
評価

各施策の目標に対する活動状況と効果の達成度合いを「活動指標」や「効果指標」を用いて評価、公表。



A
改善

各種施策の実施状況や効果、社会情勢やニーズの変化などに対応し、下水道ビジョンの定期的見直し(おおむね6年サイクル)を実施。



図 2 P D C A のイメージ

用語：

I

湘南ふじさわ
下水道のあゆみ

II

下水道ビジョン
策定の背景と目的

III

下水道ビジョンの
基本理念と基本目標

IV

第2期アクション
プログラムの実施方針

V

第2期アクション
プログラムの事業計画

VI

第2期アクション
プログラムの実現化方策

VI-2 第2期アクションプログラム実現のための活動

「湘南ふじさわ下水道ビジョン」では、4つの視点のうち、“事業効果～コスト～リスク”のバランスを考慮した“事業の継続性”に向けた活動が重要となります。

そのため、第2期アクションプログラムでは、施策ごとに設定した指標を用いた評価に基づき、計画を見直します。さらに、アセットマネジメント手法の導入に向けた活動を強化することで、より一層、効率的・効果的な事業の実現と下水道サービスの向上に繋がります。

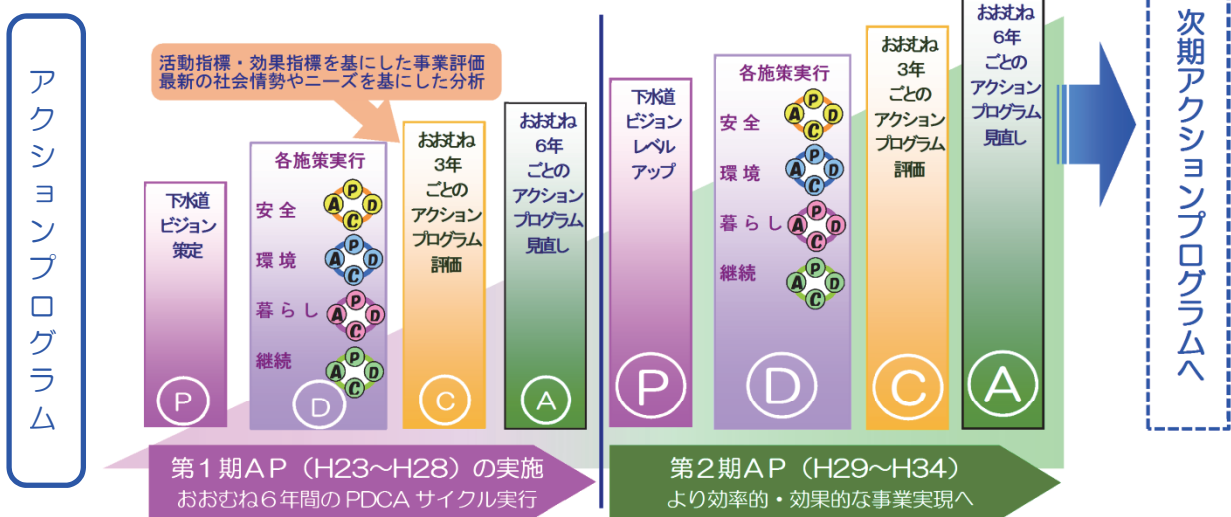
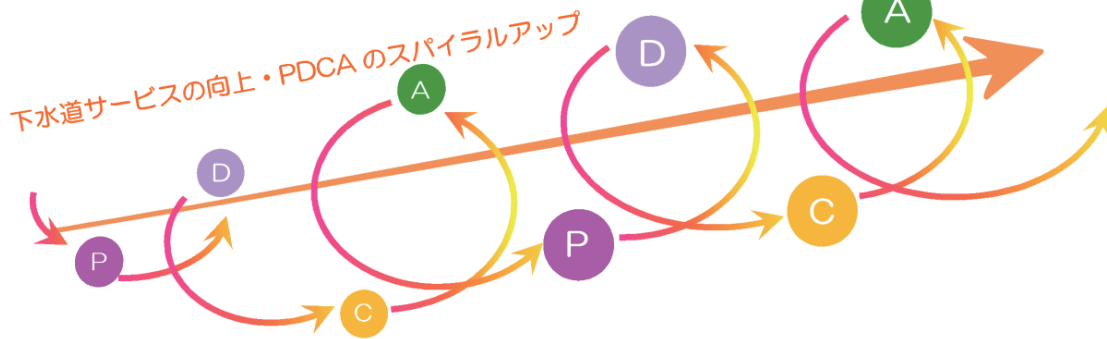


図3 湘南ふじさわ下水道ビジョン進行管理イメージ

用語：

VI-3 第2期アクションプログラムの評価指標

下水道ビジョン第2期アクションプログラムで定めた各種事業を着実に実施し（D）、効果を上げるための目標指標として施策ごとに「活動指標」と「効果指標」を設定しました。この評価指標に基づき3年間の施策実施状況に関する中間評価と6年間の施策実施状況の評価（C）を行い、『湘南ふじさわ下水道ビジョン第3期アクションプログラム』の改善（A）に関する指標とします。

●活動指標●

施策の目標に対する活動状況を表すもの。

目標のとおりに事業が進捗しているかどうかを判断する目安となるものです。

●効果指標●

事業を活動指標に示した予定どおり進めた場合に得られる効果を表すもの。

「湘南ふじさわ下水道ビジョン」を実現するための目標となるものです。

なお、「活動指標」は、目標のとおりに事業が実施しているかどうかを判断する目安となるものですが、事業実施の際に、より効率的な事業手法へと変更した場合など、必ずしも目標どおりになるものではなく、「効果指標」に示す目標の達成を目指すことが求められます。したがって、基本方針において定めた目標の実現のためには、各施策の手段・手法にとらわれず、着実かつ効率的かつ柔軟に事業を実施することが重要です。

表1～表4にアクションプログラム期間の「活動指標」及び「効果指標」を示します。

表1 アクションプログラム期間における活動指標の目標（値）

視点	基本方針	活動指標		施策項目
		H29～H31 (中間評価)	H32～H34	
視点1 安全	視点1-1 雨に強いまちづくりを進めます	◆浸水対策実施箇所 1地区	-	1) 浸水被害発生地区における雨水管等の整備 2) ソフト・自助・共助による取組 3) 他事業との連携による治水安全度の向上 4) 雨水貯留浸透施設の設置促進
	視点1-2 地震に強い下水道を目指します	◆耐震化実施重要施設数(処理場・ポンプ場) 19施設 ◆耐震化実施マンホール数 6箇所	2施設 51箇所	1) 下水道総合地震対策事業の実施 2) 処理場・ポンプ場の耐震化(重要施設) 3) 管路の耐震化(重要施設) 4) 危機管理体制の充実・強化
	視点1-3 管路の老朽化による道路陥没事故を未然に防止します	◆長寿命化対策実施管路延長 約9km	約18km	1) 計画的点検・調査の実施 2) 計画的維持管理と情報管理の実施 3) 計画的修繕・改築の実施 4) 地震対策と連携した改築の実施
視点2 環境	視点2-1 海・川のさらなる水質改善に努めます	◆きょう雑物の除去装置設置率 86%* ◆合流式下水道改善対策面積 約550ha* ◆大清水浄化センターの増強/高度化 必要に応じて実施	95%* 約550ha* 必要に応じて実施	1) 合流式下水道の改善 2) 汚水処理施設の普及拡大 3) 処理の高度化 ※合流式下水道改善事業に関する目標はH22年度以前(下水道ビジョン策定前)も含めた事業全体の累計値
	視点2-2 温室効果ガス排出量削減に努めます	◆設備改築時の省エネルギー型機器導入 改築時に省エネ機器の導入を検討 ◆新エネルギーの導入 必要に応じて導入検討 ◆高温焼却の実施 高温焼却の実施	改築時に省エネ機器の導入を検討 必要に応じて導入検討 高温焼却の実施	1) 設備改築時の省エネ機器導入 2) 高温焼却の実施
	視点2-3 資源・エネルギー循環の形成に努めます	◆バイオマス活用 情報収集・情報共有化 ◆新エネルギーの導入 情報収集・情報共有化	情報収集・情報共有化 情報収集・情報共有化	1) バイオマス・熱利用の研究 2) 新エネルギー活用による自給推進
視点3 暮らし・活力	視点3-1 汚水処理施設の早期整備で快適な生活環境を創造します	◆汚水管路整備面積 約40ha	約60ha	1) 公共下水道区域の見直し 2) 段階的・効率的汚水処理施設整備の実施 3) 浄化槽整備・維持管理手法の検討 4) その他の取組
	視点3-2 良好な水循環の形成に努めます	◆雨水貯留浸透施設の設置促進 設置促進	設置促進	1) 雨水貯留浸透施設の設置促進
視点4 事業の継続性	視点4-1 施設再生、管理の改善・効率化に努めます	◆長寿命化等対策実施施設数 17施設	5施設	1) 施設の管理基準・事業計画の作成 2) 下水道台帳(施設)、改築・修繕履歴の体系的なデータベース化 3) LCC最小化を目指した施設再生・施設長寿命化の推進
	視点4-2 人口減少・財政制約に対し、経営基盤の強化に努めます	◆中長期経営計画策定 計画策定 ◆コスト縮減 取組 ◆収入確保 取組 ◆アセットマネジメント手法の導入 計画策定 システム構築・試行	計画策定 取組 取組 計画策定 システム構築・試行	1) 中長期経営計画の策定とアカウンタビリティの向上 2) コスト縮減への取組 3) 収入確保への取組 4) アセットマネジメント手法の本格導入
	視点4-3 市民とのパートナーシップを高めます	◆下水道事業のPR活動の実施 PR活動の実施	PR活動の実施	1) 『見える下水道』の推進 2) 市民や民間事業者との連携による事業実施 3) 下水道事業の総合化、重点化

用語：

表2 アクションプログラム期間における効果指標の目標（値）

視点	基本方針	効果指標		施策項目	
		H29～H31 (中間評価)	H32～H34		
視点1 安全	▶ 視点1-1 雨に強いまちづくりを進めます	◆重点地区における床上浸水被害解消戸数		1) 浸水被害発生地区における雨水管等の整備 2) ソフト・自助・共助による取組 3) 他事業との連携による治水安全度の向上 4) 雨水貯留浸透施設の設置促進	
		約40戸 (約17%)	約40戸 (約17%)		
	▶ 視点1-2 地震に強い下水道を目指します	◆地震対策実施率(処理場・ポンプ場)		1) 下水道総合地震対策事業の実施 2) 処理場・ポンプ場の耐震化(重要施設) 3) 管路の耐震化(重要施設) 4) 危機管理体制の充実・強化	
		38%	40%		
			◆地震対策実施率(管路)		
		32%	54%		
	▶ 視点1-3 管路の老朽化による道路陥没事故を未然に防止します	◆長寿命化対策実施率		1) 計画的点検・調査の実施 2) 計画的維持管理と情報管理の実施 3) 計画的修繕・改築の実施 4) 地震対策と連携した改築の実施	
		6%	16%		
視点2 環境	▶ 視点2-1 海・川のさらなる水質改善に努めます	◆合流式下水道改善率		1) 合流式下水道の改善 2) 汚水処理施設の普及拡大 3) 処理の高度化	
		35%	35%		
	▶ 視点2-2 温室効果ガス排出量削減に努めます	-	-	1) 設備改築時の省エネ機器導入 2) 高温焼却の実施	
	▶ 視点2-3 資源・エネルギー循環の形成に努めます	-	-	1) バイオマス・熱利用の研究 2) 新エネルギー活用による自給推進	
視点3 暮らし・活力	▶ 視点3-1 汚水処理施設の早期整備で快適な生活環境を創造します	◆汚水処理人口普及率		1) 公共下水道区域の見直し 2) 段階的・効率的汚水処理施設整備の実施 3) 浄化槽整備・維持管理手法の検討 4) その他の取組	
		約96%	約97%		
	▶ 視点3-2 良好な水循環の形成に努めます	-	-	1) 雨水貯留浸透施設の設置促進	
視点4 事業の継続性	▶ 視点4-1 施設再生・管理の改善・効率化に努めます	◆目標耐用年数内施設の確保率		1) 施設の管理基準・事業計画の作成 2) 下水道台帳(施設)、改築・修繕履歴の体系的なデータベース化 3) LCC最小化を目指した施設再生・施設長寿命化の推進	
		約70%	約70%		
	▶ 視点4-2 人口減少・財政制約に対し、経営基盤の強化に努めます	◆経費回収率		1) 中長期経営計画の策定とアカウンタビリティの向上 2) コスト縮減への取組 3) 収入確保への取組 4) アセットマネジメント手法の本格導入	
	100%以上	100%以上			
	▶ 視点4-3 市民とのパートナーシップを高めます	-	-	1) 『見える下水道』の推進 2) 市民や民間事業者との連携による事業実施 3) 下水道事業の総合化、重点化	

用語：

表3 活動指標の算定方法の説明

視点	基本目標	基本方針	活動指標	計算方法
安全	安全・安心なまちづくりへの貢献	視点 1-1 雨に強いまちづくりを進めます	浸水対策実施箇所 雨水貯留浸透施設の設置促進	浸水対策を行う排水区の期間内対策箇所数 —
		視点 1-2 地震に強い下水道を目指します	下水道総合地震対策計画策定	—
			耐震化実施重要施設数	耐震補強工事を行う土木建築施設（全 251 分類中）の期間内対策施設数
			耐震化実施マンホール数	耐震化を実施するマンホールの期間内対策数
		視点 1-3 管路の老朽化による道路陥没事故を未然に防止します	長寿命化対策実施管路延長	改築又は修繕を行う管路延長
環境	湘南の自然環境との共生	視点 2-1 海・川のさらなる水質改善に努めます	きょう雑物の除去装置設置率	合流区域の吐口においてきょう雑物除去装置を設置した割合の期間最終年累計値
			合流式下水道改善対策面積	合流式下水道の改善対策による汚濁負荷削減量を合流式の面積に換算した値
			大清水浄化センターの増強	期間内に大清水浄化センターにおいて増設する水処理池数
			大清水浄化センター高度化	—
	地域から取り組む地球環境保全	視点 2-2 温室効果ガス排出量削減に努めます	設備改築時の省エネルギー型機器導入	—
			新エネルギーの導入 高温焼却の実施	— —
		視点 2-3 資源・エネルギー循環の形成に努めます	バイオマス利活用	—
			新エネルギーの導入	—
暮らし・活力	快適で潤いのあるまちづくりへの貢献	視点 3-1 汚水処理施設の早期整備で快適な生活環境を創造します	汚水管路整備面積	期間内の汚水管路整備面積
		視点 3-2 良好な水循環の形成に努めます	雨水貯留浸透施設の設置促進	—
事業の継続性	自然・ひと・まちが共生する都市を次世代につなぐ	視点 4-1 施設再生、管理の改善・効率化に努めます	長寿命化等対策実施施設数	市の改築計画における期間内の長寿命化等対策施設数
		視点 4-2 人口減少・財政制約に対し、経営基盤の強化に努めます	中長期経営計画の策定	—
			コスト縮減	
			収入確保	
視点 4-3 市民とのパートナーシップを高めま	下水道事業のPR活動の実施	—		

用語：排水区

表4 効果指標の算定方法の説明

視点	基本目標	基本方針	効果指標	計算方法
安全	安全・安心なまちづくりへの貢献	視点 1-1 雨に強いまちづくりを進めます	重点地区における床上浸水被害解消戸数（解消率）	重点地区において対策により解消され则认为される過去の被害家屋数 (床上浸水解消戸数÷過去の床上浸水被害戸数)×100(累計値)
		視点 1-2 地震に強い下水道を目指します	地震対策実施率	【処理場・ポンプ場】=ビジョン期間内(H42まで)に地震対策を行う予定の処理場・ポンプ場全251分類施設(土木・建築)のうち、評価年までに対策を実施した施設数の割合(累計値) 【管路】=緊急輸送道路・幹線管渠上のマンホールのうち、評価年までに診断を行い耐震性能を有すると診断された施設及び耐震化(マンホール浮上防止対策)を実施した施設数の割合(累計値)
		視点 1-3 管路の老朽化による道路陥没事故を未然に防止します	長寿命化対策実施率	長寿命化等対策(修繕・改築)を完了した管路延長÷緊急的に長寿命化等対策を必要とする管路延長(ビジョン期間内対策延長)×100(累計値)
環境	湘南の自然環境との共生	視点 2-1 海・川のさらなる水質改善に努めます	合流式下水道改善率	対策済み汚濁負荷量(t/年)÷ビジョン期間内対策汚濁負荷量(t/年)×100(累計値)
		視点 2-2 温室効果ガス排出量削減に努めます	—	—
	地域から取り組む地球環境保全	視点 2-3 資源・エネルギー循環の形成に努めます	—	—
暮らし・活力	快適で潤いのあるまちづくりへの貢献	視点 3-1 污水处理施設の早期整備で快適な生活環境を創造します	污水处理人口普及率	污水处理施設が普及した人口÷行政人口×100(累計値)
		視点 3-2 良好な水循環の形成に努めます	—	—
事業の継続性	自然・ひと・まちが共生する都市を次世代につなぐ	視点 4-1 施設再生、管理の改善・効率化に努めます	目標耐用年数内施設の確保率	処理場・ポンプ場全236分類施設(機械・電気)のうち、標準耐用年数経過率2倍以内の施設の割合(評価年値)
		視点 4-2 人口減少・財政制約に対し、経営基盤の強化に努めます	経費回収率	下水道使用料÷污水处理に要した費用×100(評価年値)
		視点 4-3 PR事業等の参加人数等の増加率(H21年度比)を高めます	PR事業等の参加人数等の増加率(H21年度比)	(下水道PR事業等に参加した市民等の人数÷H21年度の参加人数4,175人-1)×100(評価年値) ※第1期アクションプログラム期間のみ

用語：